

[学会発表]

福島県内在宅高齢者の食嗜好調査 その2 主食について **真鍋 久・岡本睦友・鈴木秀子**

2008年5月17日

日本食生活学会第36回大会

東京農業大学

福島県内8市1町に在住する65歳以上の在宅者を対象に、健康状態、食事内容、食事の好みなど、食生活全般に関するアンケート調査（留め置き法）を行った。

今回は主食の摂取状況を解析し、以下の結果を得た。多くの者が米飯を主食としていた。米飯は朝食と夕食での摂取頻度が特に高い状態にあった。飯以外の米料理についても、摂取頻度は低いものの、多種類の料理が食されていた。ただし、摂取パターンは地域間でかなり異なっていた。

[学会発表]

エンドウに内在する D-アミノ酸 - 幼植物ならびに培養細胞における存在パターンの特徴 - **真鍋 久・三浦とも子・山田 智**

2008年7月2日

日本土壌肥料学会東北支部大会

戦災復興記念館（仙台市）

エンドウ幼植物には D-アラニンが遊離型(FDAL)並びに結合型(CDAL)で相当量存在するものの DAL の存在意義は不明である。そこで、FDAL や CDAL の体内挙動を調査することにより DAL の存在意義を知るための手がかりを得ようと考えた。今回は光照射の影響を検討したほか培養細胞における DAL の存否や存在形態を調査した。その結果、エンドウ植物は DAL を常時生成しているものの、FDAL の LGDA への変換は発芽期に限定してなされており、その変換系は光照射により抑制される傾向にあることが明らかになった。

[研究発表]

塩類を活用した魅力ある植物性食品(作物)づくりの可能性を探る **真鍋 久**

2008年7月11日

平成20年度福島県ハイテクプラザ会津若松技術支援センター研究成果発表会

福島県ハイテクプラザ会津若松技術支援センター

作物は足を持たないので動物のように容易に移動できたりはしない。したがって、ある場所に根を下ろした作物は、その地を「終の棲家」にしなければならない。よって、生息地の環境が厳しい場合、作物は、その環境に順応すべく、自身の体制を変えようとする。たとえば、海岸の近くや乾燥地では、土壌(養水分の供給場所)の浸透圧が高いこと、水分が不足気味であること、特定のミネラルが過剰に作物側に移行しがちになること等々によりで、作物は生育阻害をおこしかねなくなる。したがって作物は、体内の高分子化合物を低分子化して体内浸透圧を上昇させたり、適合溶質や抗酸化物を盛んに合成して生態膜を保護したりする。このような作物側の応答結果は、食の立場に立てば大いに魅力的にうつる。作物(植物性食材)の高品質化や高付加価値化に強く結びついているからである。

こうした考え方のもと、温泉水を利用した作物(食品素材)栽培を提案する。この提案を実施することにより以下のメリットがもたらされる。温泉水はミネラル給源になる。塩類によるストレス効果が期待できる。冬季栽培時には地温・水温の低下を抑制できる。話題性が高いので観光効果が期待できる。